

”生活に根付いた学びの機会”

6.19 オープン・ダイアログ レポート

「Simple Life ～あなたにとってシンプルとは？豊かに生きるためのコミットメント～」

私たちは普段、どこかの組織に属しています。それは、職場でもあり、学校でもあり、家庭でもあります。それぞれの場ではそれぞれの役割があり、その役割や責務を果たすことを日々行っています。今回のように、どのように自分の人生をデザインしていくかを考えていくときには、日本では非日常の場を設定しますが、それが日常生活へきちんと活用できたり、自分の成長のために循環していることは多くはないのではないのでしょうか。

例えば海外では、このような場は人々の暮らしの中に自然と存在しており、日常的に学ぶ環境が整っています。イギリス、ロンドンの市立図書館では、いわゆる図書館の機能だけでなく、子どもから大人までが日常的に学ぶためのサービスが提供され、コミュニティにおける学びの環境が仕組みとしてあります。フィンランドでは550もの大人のための教育施設が存在し、自分のコンピテンシーを更新することや、市民感覚を育むこと、また職業支援としての役割を担っています。

職場でもない、学校でもない、家庭でもない、生活の中で日常的に学ぶ第三の学び場をつくること、これからは日本でもっと必要になってくるのかも知れません。

今回のオープンダイアログは、日本各地域での社会活動に参加しながらソーシャル・アーティストとして活動しており、それらの活動を通して自身の働き方を問い直している遠藤綾氏の企画・進行で実施。これからの人生のデザインしていくための方向性を「simple」という考え方を軸にして考えていく試みです。

今回の企画・進行を行った遠藤綾氏



対話のきっかけとして活用したのは「南の島の大統領～沈みゆくモルディブ～」というドキュメンタリー。気候変動により2100年に水没すると言われているモルディブの存亡のために、政治を通して国際社会へ働きかけ続けたモハメド・ナシード前大統領を追いかけた物語から、「Ecology/Economy」「Mohamed Nasheed」being/doing」「Simple」という4つのキーワードを元に参加者の考えを重ねていきます。

まず「Simple」を考える前に、「Ecology/Economy」「Mohamed Nasheed」のテーマにおいて、日本と海外の環境や経済に対する意識の違い、モルディブやモルディブの人が直面していることを日本に置き換えた時の課題等、環境や経済、世界など大きな枠で捉えることで、考える視点を広げていきました。

参加者の発言より

「彼を動かしているものは何なんだろう？祖国愛という言葉で片付けて良いのかどうか。」

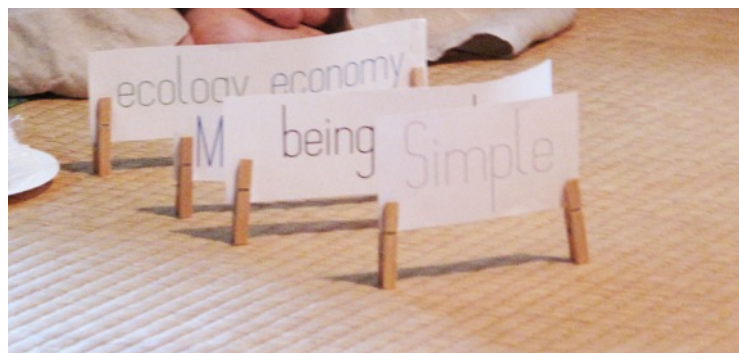
「日本のニュースはその日の出来事を伝えるが、海外は世界情勢がどうなっているかを日々ドキュメントしている。日本は取り上げ方に連続性がない。」

「危機感が迫った時に始めてどうすべきかを考える。今の日本は何か危機感を感じている？」

「純粋に問題に立ち向かっていく人という印象を受けた。周りの国は別に沈むわけじゃないから関係ないから説得するのは大変。」



モハメド・ナシードの取ってきた選択を読み解きながら、自分の中にある思いや考えに置き換え、「being/doing」を考えるシーンでは、Beingというものが良く分からない、もしくは漠然とした印象を語ることから、他の参加者の考えを聞くうちに「自分のあり方」という視点から考えていくシーンへと変わっていきます。



参加者の発言より

「自分がBeingを持っているかという、よく分からない。軸はないような気がする。職場や学校等、その場その場での自分の役割は意識しているが、目先のことしか考えていない。」

「軸がないというよりは、言葉に出来ていないのでは？自分の気持ちの棚卸しをしていないから、軸を持っていないみたいに思うのでは？」

「海外の教育関係の本とかを見ていると”Learning to be”という概念がある。日本語に訳すのは難しいが、根本的なものがそこにあるような気がする。」

「周りの環境によって自分がどうあるのかが変わる。自分がその都度変化していく感じはある。」

最後の「Simple」を考える段階では、ここまで話してきたことから、ナシードの選択や行動は軸がぶれていない、余計なものがなく突き進んでいる、ということからシンプルだという意見が多くなりましたが、いざそれを自分たちに置き換えてみると、シンプルは信念を持ち突き進むということ以外の概念があるようにも見えてきました。

参加者の発言より

「自分の働き方として、都内で稼ぎ、住む地域で貢献するということが、今の自分にはしっくりきている。働き方が変わってきて、今の自分にとってはそれがシンプルなのかも知れない。」

「シンプルという価値観は好き。でも服を長く着る／ものを大切に使う等、そういう表面的なことではなかった。」



「シンプルの語源に”織りなす”という意味があったと思う。もしかしたら、自分の中に既にあるものではなく、他の人達との中で揉まれて生まれていくものではないか。」

「必要以上にもものを持たないことは、管理するという概念がなくなるのでストレスが減るかもしれない。」

シンプルという言葉は一見シンプルのように見えて、実はそうではなく、今回のように自分の周りに存在しているものを全て含めて考えるところから始まるのかも知れません。